

第3回学長定例会見資料1

神戸大学日欧連携教育府の設置とその狙い

神戸大学学長補佐

久保広正

kubo@econ.kobe-u.ac.jp

神戸大学は10月1日、日欧連携教育府を設置します。具体的には国際文化学部・研究科、法学部・研究科、経済学部・研究科を中心としてEUエキスパート人材を養成していきます。

EUはなぜ重要か

神戸大学はなぜEUにこだわるのかを理解していただくために、世界の中でなぜEUは重要かをお話しします。EUは様々な分野で規則・規範を生み出す「Normative Power（規範力）」に優れていて、EUで決めたことがグローバル・スタンダードになるケースが増えています。その高等教育における良い例が「ERASMUS（European Region Action Scheme for the Mobility of University Students）」計画です。欧州全域の大学の単位互換協定がこれなのです。これを元にして欧州全域で学生の交流は進んでいます。この計画に参加するためには当然単位の出し方、学位の出し方をチェックされます。これによって品質保証がなされます。そしてこのエラスムス計画が日本にも参加を呼びかけています。

今、注目を浴びる日本の大学

EUは世界の大学に単位互換のダブル・ディグリー協定締結を呼びかけています。最近の研究・教育は複雑化・巨大化していて1大学では対応が困難です。戦略的な提携先をEUの大学は模索しています。そこで注目されているのが日本の大学なのです。中国の大学は一方的な学生の送り出しですし、相互主義・互惠主義の立場からすると提携先には難しいのです。

日本の国立大学連合とEU圏大学で交流協定

そこで神戸大学が代表校となって九州大学、大阪大学、奈良女子大学の4大学でコンソーシアムを結成、EU圏ではルーヴァン・カトリック大学（ベルギー）が代表校となってエセックス大学（イギリス）、ヤゲウォ大学（ポーランド）、ルンド大学（スウェーデン）、ティルブルグ大学（オランダ）、グローニンゲン大学（同）の6大学でコンソーシアムを結成して10月から日・EU間学際的先端教育プログラムを実施することになりました。2017年までの4年間に日本から23人、EUから20人の学生を派遣・受け入れするものです。これは日本政府がEUと実施する教育連携プログラムの一環とし

て ICI-ECP プロジェクトに採択されました。

このような動きはエラスムス計画で説明しましたように、単位の出し方、学位の出し方も変わり、大学のシステムそのものが変わる、つまりどこで学んでも変わりが無い、何を学ぶかが重要な時代への転換を告げることなのです。

“大学の見本市”で提携先を探す

9月11日から13日の間、イスタンブールで欧州の国際教育交流団体 EAIE (European Association for International Education) のフェアが開催されました。ヨーロッパの団体が主催するイベントなのですが、ヨーロッパ以外の米国、日本、韓国などの大学も参加して、参加者数は4から5千人に達していました。なぜ、このような大規模なイベントになったのか。それぞれの大学が提携先を求め、提携先、あるいは連携の可能性がある大学との打ち合わせを効率的に行えるからです。大学の見本市といったところですね。私も、このフェアで計24の大学と面談し、すべての大学と今後協力関係を発展させることで合意しました。

EU エキスパート人材養成プログラムの狙い

ところで、上記しました ICI-ECP に関連して2点指摘したい点があります。まず第1は、「EU エキスパート人材育成プログラム」です。ICI-ECP では、修士課程の神戸大学生が、1年間、EU の大学に留学することによって、その大学で修士号を取得することを見込んでいます。ただ、それは簡単ではありません。これを可能とするため、神戸大学では10月1日から新たな組織「日欧連携教育府」を発足させ、2014年4月から、プログラムをスタートさせます。その概要は次の通りです。まず、EU の大学から3人の教員に神戸大学教授に就任してもらいました。また、4年間で計16人の非常勤教員を招へいする予定です。これらの教員には、大学2年生からEU流の教え方で、かつ、英独仏語により指導をお願いしております。このことにより、大学生生活の初期段階から、目的意識を持ち、EU で修士号を取得することが可能であるように、インセンティブを持ち、EU のみならず、EU で生み出される規範・ルールに通じ、国際社会で交渉が可能となる人材を育成しようとするのが、このプログラムの目的です。こうしたプログラムを修了した学生は、神戸大学とEU の大学双方から修士号を取得することになります。例を申し上げますと、神戸大学で経済学修士号、ルーヴァン・カトリック大学でEU 学修士号です。文部科学省も支援してくださっております。

日 EU の科学者がマッチング

また、もう一点は、科学技術関係です。EU 研究というと、ともすれば、政治学・法学・経済学・文化学など、いわゆる文系の分野に属すると考えられ

がちです。ただ、EUは、財政危機にもかかわらず、科学技術振興にはとりわけ資金を振り向けつつあり。また、わが国との間で科学技術協力協定を締結し、この面で緊密な協力を呼び掛けています。

こうした背景の下、日欧産業協力センター（経済産業省と欧州委員会が共同で設立）という国際機関が申請したプログラム（“Japan-EU Partnership in Innovation, Science and Technology”、略して JEUISTE）に神戸大学が日本で唯一の機関として参加、採択されました。その目的は、日・EUの科学者がマッチングをする機会を設けることに対して資金が援助されるというものです。

日 EU が神戸大学に集中的に資金投下

なお、皆様、既にご承知の EU インスティテュート関西は、EU の「外務省」から、また、ICI-ECP は、EU の「文部科学省」から、さらに、この JEUISTE には、EU の「科学技術庁」から神戸大学は資金援助を受けることになりました。さらに、「EU エキスパート人材育成プログラム」には、文部科学省から援助を頂いております。まさに、日 EU が神戸大学に集中的に資金を投じて頂けるようになってきたと申せます。

これからは、世界の大学が戦略的提携を図る時代に入りました。とりわけ、このような戦略は、EU の大学が先行していると思います。彼らは、日本の大学にも提携に乗らないかと呼びかけるようになってきました。神戸大学は、こうした呼びかけの中心になりつつあります。